

富山県聴覚障害者 センターだより

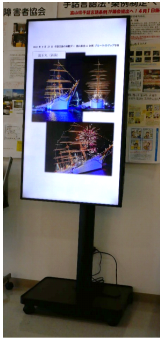
- 協会とセンターのホームページ
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布してい

デジタルサイネージ(掲示板)等を購入しました

聴覚障害者情報提供施設運営補助金「情報化対応特別管理費」による国と県の加算制度を活用して5年目。今年度は、次の通りデジタルサイネージディスプレイ、聴力検査装置が収納できる棚、プリンター等を購入しました。

◆デジタルサイネージを2階にも設置しました◆

1階ロビーでのデジタルサイネージによる情報提供に加えて、2階ロビーにも新たに設置しました。協会やセンターからのお知らせのほか、聴覚障害に関連した記事を編集して情報提供しています。



◆聴力検査ができるようになりました◆

聴力検査各装置の収納棚を購入し2階の控室に配置しました。スピーカーによる聞こえの検査などもできるようになり、運転免許更新前に補聴器の確認等、使えます。

◆1階ロビーのパソコンのデータを印刷できます◆

ロビーにあるパソコンからも無線LANを通してプリントアウトできます。最大A3判も印刷可能です。



前月号に掲載しました来年度予算への要望について、障害福祉課・県立学校課より、次の通り回答を頂きました。(抜粋)

- 富山県手話言語条例に基づく施策の充実について
→コンビニ等にパンフを配り、手話普及活動促進事業の利用促進を図った。福祉イベントに限らず、すべての県民が手話に触れることができる機会の確保、環境整備に努めたい。
- 第36回全国ろうあ高齢者大会への補助金等の支援について
→補助金は、貴協会の意向を伺いつつ、財源等を整理しながら、県庁内で協議してまいりたい。
- 障害者総合支援法・意思疎通支援事業の報酬単価の増額について
→各都道府県の状況を調査し、適正な予算確保に努めたい。県及び市町村の報酬単価の統一について、これまでの要望に踏まえ、連携してまいりたい。
- 切れ目のない難聴児の支援等の施策について、協議の場への当事者の参加について
→実務担当者による情報共有や具体的な支援体制、関係機関の連携方策など協議の場の設置に向けて、議論を進めてまいりたい。
- 聴覚障害教育の充実について
→特別支援学校のセンター的機能や専門的な人材の派遣により、研修機会や内容の充実を図り、難聴特別支援学級等の担当者の専門性の向上と指導の充実に努めてまいりたい。



センター利用の実績 12月21日～1月20日

- 来所者合計 363名
聴障者180名、健聴者183名
- コミュニケーション支援 72件
- ライブラリー貸出 0件
- 相談対応 4件 ●部屋貸出 23件

★センター運営募金・募集郵便振替口座；
00790 - 0 - 93002
名称；富山県聴覚障害者センターを支える会
よろしくお願ひします。